# 主権者が政治変える

1/6 赤旗

## 安保法制廃止 安倍政権ノー

# 市民連合が初街宣

東京・新宿

市民連合の街頭宣伝で、弁士の訴えを聞く人たち＝5日、東京・新宿駅西口

昨年12月に結成された「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」（市民連合）が5日、「アベにNO！野党共闘へ」を合言葉にする初の街頭宣伝を東京・新宿駅西口で行いました。戦争法の廃止を求める「2000万署名」にも大きな反響がありました。市民連合に参加する団体代表と、野党各党が交互にスピーチ。国民一人ひとりが主権者として、筋の通った野党共闘を実現し、夏の参院選で勝利しよう、自公を過半数割れに追い込もうとの訴えが相つぎました。最後には「民主主義って何だ　これだ！」「選挙に行こうよ」のコールが響きました。

↓関連②③⑤⑲面

### 志位委員長訴え

### 720人余が署名

新宿駅西口の歩道は、数十メートルにわたって埋め尽くされ、「ラインで友人に誘われた」（仙台市の25歳、男子大学生）、「政治への意識を高めたくて来た」（横浜市の15歳、男子中学生）など、多くの若者が訴えに聞きいりました。歩道橋のデッキの上にも多くの人が集まるなど、駅前は約5000人（主催者発表）で埋まりました。

戦争法の廃止を求める「2000万署名」への協力を呼びかけると、駅前を歩く人が立ち止まり、720人を超える人が署名に応じました。署名用紙を何枚も持ち帰る人も目立ちました。

街宣では、市民連合有志の各代表、著名人、国会議員らが宣伝カーの上から訴えました。

「安保関連法に反対するパパ・ママの会@熊本」の瀧本知加さんは「全国に先駆けて市民と野党各党の統一候補を擁立することができました。こんなにひどい政治を見過ごせない。この動きが広がることを願っています」。

SEALDs（シールズ）の本間信和さんは「私たちは準備ができています。小さな違いや対立を超え、強行的な政治を推し進める政権に対してあらがう準備が。参院選に向け自分には何ができるのか。実際に行動していきましょう」とよびかけました。

街頭宣伝の趣旨を説明した「総がかり行動実行委員会」構成団体の一つ、憲法共同センターの小田川義和さんは、「市民の声を形にし、市民と政党の共同を実現させる。2000万署名を集めきり、野党共闘を前進させましょう」と呼びかけました。

日本共産党の志位和夫委員長をはじめ、民主党の蓮舫代表代行、維新の党の初鹿明博衆院議員、社民党の吉田忠智党首が参加。「憲法を守らない安倍政治を終わらせよう」との各氏の訴えに、聴衆からは「野党は共闘」のコールが何度も起こりました。

1時間半にわたった訴えの最後には、学者の会で、学習院大学教授の佐藤学さんが「（参院選で）野党共闘が実現すれば、過半数超えも不可能ではない。市民が政党を動かす新しい日本の道筋を開こう」と締めくくりました。

後方で立ち止まって、訴えを聞いていたのは、東京都文京区の女子高校生（17）です。「最近、学校で18歳選挙権の授業がありました。私が思っているより政治のことを考えている人が多かったんです。きょう見て感じたことをみんなに伝えていきたい」

「1年半前まで自民党支持者だった」。9歳の孫を連れていた杉並区の阿部博紀さん（67）はいいます。「孫が6人いる。戦争だけは絶対にしてはいけない。地域でも行動していく」

# 「安倍暴走止める勝負の年」「このままでは危ない」

市民連合の街頭宣伝で弁士の訴えに聞き入る人たち＝5日、東京・新宿駅西口

# 「野党は共闘」若い声

5日正午から、東京・新宿駅西口でおこなわれた「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」主催の新春大街頭宣伝。聴衆には若者の姿が目立ち、「安倍暴走政治を止めよう」「野党は共闘」などの思いを語りました。

## 目輝かせ"私も動く"

### 市民連合街宣

演説に聞き入っていた黒川真友さん（30）＝東京都杉並区、出版業＝は、「ツイッターを見て、仕事が休みだったので来ました。平日の昼間ですが、たくさん人がいますね」と周りを見回します。安倍政権に対して「憲法を守るという当たり前のことをしてほしい」と憤り、「野党は共闘してほしい。日本共産党が提案する国民連合政府にも期待しています」と話します。

開始20分前から宣伝カーのすぐ前に陣取った女性（16）＝滋賀県、高校1年生＝は、神奈川県に住む祖母を訪ねてきて、この集まりをツイッターで知り母親と参加しました。以前から政治に興味を持っていましたが、「どうにもならない」と思っていたといいます。

しかし、昨年9月の戦争法の強行成立をみて、「このままでは日本は本当に危ない。私も声をあげたいと思うようになった」と高校生の「Ｔｗｏ ＳＯＷＬ ｗｅｓｔ」（テーンズ・ソウル・ウエスト）の活動に参加しました。

宣伝を聞き終え、目を輝かせて語りました。「若い人が多くて楽しかった。いろいろなスピーチを聞いて、ほかの人への伝え方のヒントを得られた。いつか私も宣伝カーの上で話してみたい」

茨城県から参加したアルバイトの女性（29）は、昨年夏の国会前などのデモには参加しませんでした。その後、ＳＥＡＬＤｓ（シールズ）メンバーが語った催しなどに参加。「集会に自分もいかなきゃ」と変わったと話し、「ことしはデモにも参加したい」と意気込んでいました。

シールズのデモや集会を知り、同じ学生として「すごい」と思っていた東京都内の大学4年の原和也さん（22）＝神奈川県在住＝は、初めて街頭の演説に自ら足を運びました。

「自分からは行動には踏み出さず、ニュースやツイッターやフェイスブック上の文字でしか見ていませんでした。『一次情報』として自分の目で見てつかみたい」

「違憲戦争法廃止」と手書きした紙をクリアファイルに入れて掲げていた名古屋市から参加した谷口祐侑子（ゆうこ）さん（26）は、元気よく語りました。「安倍政権の暴走を止めるために勝負の年だと思います。市民と政党の両方が協力の度合いを高める必要があります。私も友人や知人に働きかけていきたい」

1/6 赤旗